

2025年6月2日

各位

株式会社フジ・メディア・ホールディングス  
株式会社フジテレビジョン

## フジテレビ「サステナビリティ経営委員会」 第1回外部アドバイザリーボードの開催について

当社子会社の株式会社フジテレビジョン（以下「フジテレビ」）は5月30日、サステナビリティ経営委員会の第1回外部アドバイザリーボードを開催いたしましたので、お知らせいたします。

### 1. 外部アドバイザリーボードについて

外部アドバイザリーボードは、2025年5月23日付で公表した「第2回『サステナビリティ経営委員会』の開催及び外部アドバイザリーボードの設置について」に記載のとおり、フジテレビが「サステナビリティ経営委員会」（以下、「委員会」）の下で推進しているサステナビリティ経営の実現に向けた取り組みがより実効的なものとなるよう、定期的に外部有識者から助言・モニタリングを得るために設置されたものです。

### 2. 5月30日開催の第1回外部アドバイザリーボードの内容

委員会の委員長（清水賢治フジテレビ代表取締役社長）参加の下、フジテレビのサステナビリティ経営の実現に向けた重要課題のうち、特に人権に関する取り組み状況を説明し、アドバイザーとの間で、今後の施策の方向性や、DE&I・人的資本経営の推進に関するものを含めた各種取り組みの推進に向けて、重要な考え方や留意すべき点等について議論を行いました。各アドバイザーからは、以下のとおりコメントがありました。

大崎麻子氏

「人権尊重を『ビジネスと人権』の国際基準に沿って進めていくという姿勢を高く評価したい。経営トップのコミットメントの下で、サステナビリティ経営委員会という部署横断的な組織を作り、全社で取り組む体制を整えたのは重要な第一歩である。今後は、人権デューディリジェンスに多くの日本企業に欠けているジェンダーの視点を加えて、取り組みの精度を高めていく必要がある。メディアが社会規範の形成に大きな影響力を持つことを自覚し、なぜ人権の取り組みを進めているのかを自分の言葉で語れる社員をいかに増やしていくかも重要である」

加藤茂博氏

「フジテレビはコンテンツ企業としては最高の人材が揃っている。今後はコンテンツ作りの能力に加え、人権ファーストを標榜するにふさわしい『ビジネスと人権』に理解のある人材が組織を率いていくことを、人材最適配置戦略の変化として内外に示すことが必要だ。調査結果に対しても厳正な処分で終わりにせず、透明性のある重要な経営情報を開示する企業努力を通じて社員の理解を促し、再配置の機会を通じた人材育成と活躍、活性化の仕組みを作ることも、人的資本経営の観点からは欠かせない取り組みである」

佐藤暁子氏

「日本全体における人権尊重の取り組みは、国際人権基準に照らしまだギャップが大きいことを認識することがスタート。その中でフジテレビが人権尊重の取り組みを浸透させることにも時間はかかると思うが、日本社会をリードしていくような、狭義のコンプライアンスを超えた国際人権基準に沿った取り組みを進めていくことが重要だ。これまでフジテレビが行っている対話は人権デューディリジェンスの中でも非常に重要な取り組みなので、対話の中でパワーバランスには留意して、当事者の心理的安全性を確保し、当事者の声を施策に活かしていくことが重要である」

### 3. 今後に向けて

第1回外部アドバイザリーボードで得た助言等を踏まえ、フジテレビのサステナビリティ経営の実現に向けて、実効的な施策を速やかに実行してまいります。外部アドバイザリーボードは今後も継続的に開催し、外部有識者から得た助言等をフジテレビの再生・改革に向けた各種施策に反映していく方針です。

以上